

# 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

研究機関名： 弘前大学医学部附属病院

産科婦人科

研究責任者： 追切 裕江

当院では患者さんの試料・情報を利用させていただき、下記の臨床研究を弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、下記連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

**臨床研究名称** 子宮頸部多嚢胞性病変に対する診断および治療に関する調査研究

## 研究の目的

子宮頸部多嚢胞性病変は超音波検査や CT・MRI 検査で偶発的にみつき、診断や方針決定に苦慮することがあります。特に分葉状頸管腺過形成 (lobular endocervical glandular hyperplasia: LEGH) は最小偏倚腺癌 (minimal deviation adenocarcinoma: MDA) や胃型子宮頸部腺癌 (Adenocarcinoma, HPV-independent, gastric type: GAS) がしばしば併存し、MDA の前癌病変である可能性も言われており、慎重な対応が求められます。

本研究では、当院における子宮頸部多嚢胞性病変に対する診断および治療の実際を後方視的に検討し、今後の診療に資することを目的としています。

**研究実施期間** 実施許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日

**対象となる方** 2014 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までに子宮頸部多嚢胞性病変を指摘され当院で手術を施行した方。

## 利用させていただきたい試料・情報について

当院のカルテに記録されている情報のうち、当科初診時の年齢、病理組織診断、受診の契機、症状、細胞診（子宮頸部、子宮内膜）の結果、組織診（子宮頸部、子宮内膜）の結果、MRI 検査の結果、円錐切除術施行の有無、初診から手術までの時間、子宮摘出の方法、追加治療の有無、患者の転帰について標記研究のために利用します。

本研究は既存の情報を用いる研究であり、新たに侵襲をうけることはありません。

なお、利用にあたっては氏名、住所、電話番号、患者番号等、個人を特定できる情報を削除し、仮名化して行います。

## 外部への試料・情報の提供

収集した情報は、研究結果として学会発表で公表されますが、その内容から対象者個人が特定されることはありません。研究で得られた結果については原則としてお答えしませんが、質問や相談等を希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合は下記へご連絡ください。  
患者さん／その代理人の方から、試料・情報の利用停止を求める申し出があった場合は、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

|              |                                         |
|--------------|-----------------------------------------|
| <b>本件連絡先</b> | 産科婦人科 助教 追切裕江      連絡先電話番号：0172-39-5107 |
|--------------|-----------------------------------------|